

復興を願って 書展でエール

道の駅のホールの一角に設けられた展示会場。観覧は無料で、道の駅を訪れた多くの人が多彩な作品を楽しんでいました。



蘭書道会代表の
中川紅蘭さん（福島市）

5月21日から10日間にわたり、『いいたて村の道の駅までい館』で『蘭書道会書展』が開催され、のべ600人が来場しました。震災と原発事故からの復興を願い、福島市の蘭書道会が主催したものです。中川紅蘭代表は「飯館村の復興に、多少でもエールを送ることができたのであれば幸いです」と話していました。

旧コメリ建物を活用して



床にチョークで絵や文字を自由に。廃材へのペイントなども多くの人が楽しみました。

『MARBLiNG』は松本奈々さん（右ノ深谷）と矢野孝さん（佐須）の合同会社。実験的なプロジェクトが注目を集めています。

6月13日、旧コメリ飯館店で、今後、建物の利活用に取り組む『MARBLiNG(マーブリング)』主催のリポートイベント（※リポート=再起動）が開催されました。イベントには、活動に協力する村民や、SNSの発信を通じて開催を知った村外の方々が参加。多彩なアイデアが集う拠点づくりの幕開けを、共に楽しみました。

ドローンを活用スマート農業

近くで見ると迫力が増すドローン。10kgの除草剤を乗せて空を飛びます。稲が順調に育ち美味しいお米がたくさん実りますように。



6月16日の朝、高野森夫さん（関沢）の水田で、ドローンによる除草剤散布が行われていました。高野さんは、昨年村で行われたドローン講習会に参加し、その後、my(マイ)ドローンを購入したそう。お手伝いで来ていた伊東一治さん（関沢）とも息ぴったりで、「何回かやっているけど難しいな〜」と言いつつ、とても手際よく操作していました。

はなれていても

原田 貞則 さん（飯樋町） 福島県中島村在住



いとこの知り合いがいた中島村へ避難したのは、震災の年の7月。村では酪農を中心にしていましたが、設備が必要な酪農は難しいと判断し、飼っていた和牛15頭ほどを連れて避難。直前まで地元の方が使っていた牛舎を、山田猛史さん（関根・松塚）と二緒に借りて、近くにアパートを探しました。中島村もやさしい村で、皆さんに面倒をみて

もらいました。3年が過ぎて山田さんは福島市飯野町へと移りました。私は、近くのアパートに入っていた父が避難後に認知症を発症していたこともあり、ここに残ることにしました。4年が経ち、別の牛舎を手放す人から購入。両親と同居するために家も求めました。しかし父は認知症が進み、間もなく入院して、そ



原田さんの牛舎。周囲を彩る花々は忙しい合間に妻の公子さんが手入れをしています。

の後亡くなりました。村の自宅は傷み、農機具の小屋や堆肥舎は大雪の時につぶれてしまいました。農業を手伝いながらJAに勤めていた息子も転職し、残しても大変だろうと思いい建物壊しました。それでも行政区の草刈りに出たり、回りの班長をやったりして、皆の顔を見たいです。牛を飼う人とは、セリでもしようちゅう会っています。村の田畑が少しずつきれいになっていくのを見て、人は減ってもだんだん前のような景色に戻っていくのかなと思っています。若い担い手さんは、「誰かの息子」じゃなくて、その部落の皆の息子になっていきます。頑張っはいいですね。

交流センター「ふれ愛館」だより

おすすめ図書を紹介します



はっけんずかん うみ 改訂版
発行/学研プラス



はっけんずかん むし 新版
発行/学研プラス

問 交流センター「ふれ愛館」☎ 0244-42-0072
本の貸出時間は平日の午前8時30分から午後5時までです。

図鑑の中にも発見がいっぱい！

イラストや写真をふんだんに使用した、小さなお子さんから楽しめる図鑑です。中にはたくさんの「しかけとびら」があり、とびらをめくると、さらに新たな発見が！

夏休みは、親子で本に親しむ絶好の機会。「はっけんずかん」シリーズは、「のりもの改訂版」「どうぶつ 改訂版」「きょうりゅう新版」なども所蔵しています。自由研究にも、ぜひ役立ててください。